

# 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。  
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。  
謹白

## 記

■ 受託開始日 2025年4月10日(木) ご依頼分より

## ■ 新規項目内容一覧

項目コード (旧項目コード)	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
00C81 9 (0C81 9)	Mac-2 結合蛋白 糖鎖修飾異性体 (M2BPGi) 定量  5C141-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00 (X)	冷蔵 (14日)	2~4	194 ※4	CLEIA	0.84未満 (AU/mL)	

※4：生化学的検査（I）判断料

今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

項目コード (旧項目コード)	項目名	最終受託日
06531 5 (6531 3)	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi)	2025年5月30日(金) ご依頼分まで



## ● Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi) 定量

カットオフインデックス (C.O.I.) から定量値での評価が可能となりました。

M2BPGi (Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体 : Mac-2-binding protein glycosylation isomer) は、肝生検との一致率が高く、肝線維化のステージを反映することから肝線維化マーカーとして知られています。

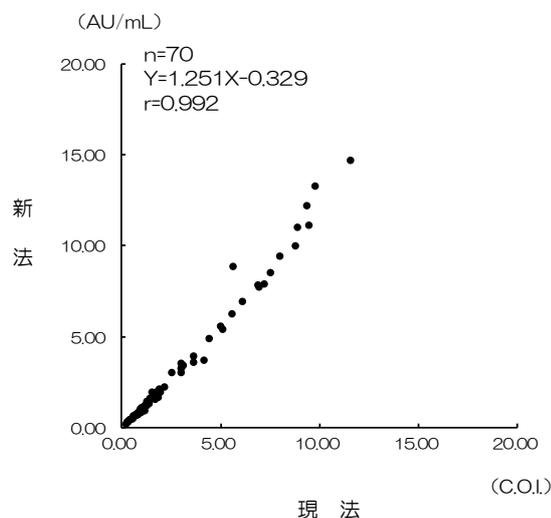
従来法によるカットオフインデックス (C.O.I.) から定量値となることで、肝線維化の進行をより詳細に評価することが可能となり、慢性肝炎や肝硬変の早期発見から治療方針の選択・モニタリング時の検査としてさらなる活用が期待されています。

### ▼検査要項

	新	現
検査項目名	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi) 定量	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi)
項目コード (旧項目コード)	00C81 9 (0C81 9)	06531 5 (6531 3)
検体量	変更はありません	血清 0.5 mL
容器	変更はありません	S09 →A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	変更はありません	冷蔵保存してください
所要日数	変更はありません	2~4 日
検査方法	変更はありません	CLEIA
基準値 (単位)	0.84未満 (AU/mL)	(-) 1.00未満 (C.O.I.)
報告範囲 (単位)	0.10未満、0.10~59.9、60.0以上 (AU/mL)	0.10未満、0.10~20.00、20.01以上 (C.O.I.)
桁数	有効3桁、整数2桁、小数2桁	有効4桁、整数2桁、小数2桁
検査実施料	変更はありません	<sup>①②③</sup> 194点 (「D007」血液化学検査「50」)
判断料	変更はありません	144点 (生化学的検査 (I) 判断料)
備考	変更はありません	

- ①「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」は、2ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。  
 ②「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」と「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」又は「オートタキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。  
 ③「ELFスコア」と、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」、「オートタキシン」又は「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

### ● 相関



### ● 参考文献 Uojima H, et al : J Gastroenterol 58 (12) : 1252~1260, 2023.

(検査方法参考文献・臨床的意義参考文献)